

# 土浦平和の会

ニュースNo. 263 2014年1月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL、FAX 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

新年あけましておめでとうございます。

土浦平和の会会長 井上仁志

去年は東海原発廃炉、原発ゼロと秘密保護法反対の戦いで大きな盛り上がりがありました。

今年はどうなるのでしょうか。安倍首相は新年早々靖国参拝で国内外の批判を巻き起こしています。

いま安倍内閣が検討しているのは敵地攻撃能力についてです。すでに次期戦闘機として予定されているF35はステルス性能と敵基地攻撃能力を持つ戦闘機です。集団自衛権のなし崩し的な行使が秘密保護法の裏で進められようとしています。

安倍首相が沖縄名護の基地建設のためにどんな約束をしたのか、金銭だけでなくオスプレイの訓練分散が全国的な問題となることが予想されます。

今年には安倍内閣の大企業奉仕、金持ち優遇政策と消費税引き上げ、社会保障切り捨て、物価上昇によって国民の生活が不安にさらされるとともに、右翼的反動的な姿勢がますます国民の批判にさらされるに違いありません。安倍内閣の暴挙を止めるために力を結集して頑張りましょう。

## 12月22日の原発「再稼働反対☆国会大包围」行動に

### 土浦から10名参加

年内トドメの大抗議としての、「再稼働反対☆国会大包围」には、日比谷野外音楽堂での集会、国会大包围・国会前集会に述べ1万5千人(主催者発表)が集まりました。

「さよなら原発土浦地域連絡会」からの参加者10名は、1時に日比谷野外音楽堂に到着。日比谷集会のあと国会大包围・国会前集会にも参加しました。

集会では主催者代表としてミサオ・レッドウルフさんが挨拶、女優の木内みどりさん、元参議院議員の水野誠一、「1000万人アクション」呼びかけ人の鎌田慧氏がスピーチ。

集会後、国会を包围、国会正門前での抗議行動には、元首相の菅直人、共産党の小池晃、笠井晃、吉良よし子氏らの国会議員や著名人がスピーチ。

思い思いのプラカード、ゼッケンや仮装姿でまた、小さな子供連の親子の参加者、ミュージシャンなど老若男女を問わず、原発やめろ！再稼働反対！安倍自民NO!の声を一つに国会周辺にとどろかせました。

この行動で、「再稼働許すな！一刻も早く原発ゼロに！」の声をもっともっと大きくし運動を広げていくことが確認されました。

参加者の皆さん、寒さの中ご苦労様でした。

平和の会ニュース、平和かわら版(PDF版)配信しています

平和の仲間へ伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122

早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスをご連絡ください

## 秘密保護法の廃止を求める署名活動をひきつづき展開しています。

### シリーズ 私の体験 (9)

## 北満（中国）での戦争体験 (1)

阿見町 長南（旧姓 池田）美佐子

私の家族は、満ソ国境の牡丹江（ぼたんこう）に住んでいた。父（池田忠一 37歳）は陸軍主計少佐で、第四国境守備隊から、新設された第百二師団参謀部に転属となった（昭和20年<1945>3月）。4月下旬には軍旗祭が挙行され、多くの軍人家族が出席し祝った。私たち5人の子供たちも母に連れられ、軍馬に乗った父の姿を誇らしげに眺めていたと母から聞かされた。幸せだった生活が、一瞬にして崩れたのはそれから間もなくだった。

8月9日深夜、ソ連は不可侵条約を破り、突然、侵入し激しい攻撃が始まった。軍の官舎に住んでいた家族はトラックに乗せられ逃げた。暗い夜空が真っ赤に染まり、パチパチと花火が散りととてもきれいだったのを鮮明に記憶している（7歳）。トラックが着いた時は真っ暗で何も見えなかった。そこは牡丹江市から約100キロも離れた鏡泊湖（きょうはっこ）だった。多くの開拓団をはじめ居留民がここを目指して避難してきた。（ここは昔、渤海王国の城址でなだらかな山々と森に囲まれた美しい湖がある。ここに新設第百二師団戦闘司令部の建設がほぼ終わり、7月中旬には参謀作戦会議が行われていた。）ここでは軍の食料をいただき、ひもじい思いはしなかった。

8月17日、全員が広場に集められ、日本が負けたことを知らされた。大人は皆泣いていた。8月27日、建物の中にいた多くの婦女子は進駐してきたソ連兵に残酷な暴行と略奪を受けていた。私と姉は何度となく若い女性の仮の子供となり強く抱きしめられ、ソ連兵から身を守った。ソ連兵は軍服を着た日本人を見れば、容赦なく射殺した。緊迫した状態が続く、身の安全のため、東京（とんきん）城への脱出を計画した。8月28日深夜、約300人の避難婦女子は出発した。赤子を背負い、この手を引いた一団の中に私はいた。東京城まで約60キロに道のりを歩いた。昼間は身を潜め、暗くなってから歩いた。母（31歳）は3歳の弟を背負い、片方に荷物、もう片方の5歳の妹の手を引いた。私は10か月の妹を背負い、9歳の姉は家族の衣類と毛布を背負った。

私の家族は次第に一行から遅れ、一番後ろからついていくのが精いっぱいだった。みんな疲れている。母の顔を見ると我儘は言えなかった。一行から脱落する家族（特に老人や乳幼児）もいたと聞いた。あの時の情景は忘れない。成人になってからもよく夢を見た。背中の妹の重みと温かさをずっと感じて生きてきた。やっと着いた東京城には大勢の人がいた。軍人さんもいた。ソ連兵が銃を構えて監視していた。疲れた体と空腹で話し声も笑い声さえ聞こえてこなかった。乳幼児のか細い泣き声が悲しく聞こえた。

（次号に続く）

この「シリーズ私の体験」欄に、読者の方の体験談をぜひ投稿してください。

### 活動ごよみ

1/18 平和の会理事会

1/24 秘密保護法廃止・国会大包围

2/11 百里平和公園初午まつり

2/22 さよなら原発連絡会学習交流会

3/9 No Nukes day 原発ゼロ大統一行動